

尾瀬ボランティア コーディネーター業務日誌

活動日	令和 7年 5月 31日 (土)	参加者	人數 : 16名 参加者 (番号) 1127、1107、1043、1113、1063 、838、839、827、1133、1134 974、029、435 財団事務局三津輪宏之 財団事務局佐々木彩乃 財団事務局青木英
活動場所	鳩待峠入山口		
記入者	三津輪宏之		
天気	曇りのち雨		

現地の状況

- 午前8時、鳩待峠入山口で集合した。雨予報であったが、無事ボランティアが鳩待峠に到着した。
- 全員集合したところで自己紹介と鳩待峠～山ノ鼻までの歩道の状況について情報共有を行い、登山者への周知方法について確認した。
- 活動は3班編制で行い、鳩待峠入山口とアヤメ平入山口に分かれて活動を行った。アヤメ平入山口は入山者が見られなかった。
- 木道が濡れている箇所が多いことが予想されたため、転倒の危険性について、入山者に対して注意喚起を行う必要があった。
- ハイキングガイドを希望する方に一つずつ配布し、登山道について案内した。
- 当日は群馬県警谷川岳山岳救助隊も山岳遭難防止の啓発活動を行っており、同じ場所で活動を行った。
- 午前10時に再集合し、振り返りを行って入山口啓発活動を終了した。

当日の具体的なボランティア活動のコーディネート

- 主に行程及び所要時間、木道の状況と安全な歩行について注意喚起を行った。
- 入山口での記念撮影を補助することをきっかけとした啓発活動
- 種子落としマットとごみ持ち帰り運動

引継・特記事項

- 曇りのち雨、肌寒い天候であった。ミズバショウ開花の最盛期であったが入山者数は余り多くはなかった。
- 入山者啓発活動の強化日として実施し、大勢のボランティアが参集した。活動後、ボランティア同士で山ノ鼻へ向かい、尾瀬ヶ原散策を楽しめていた。ボランティア同士の交流も進み、充実した活動となつた。
- 強化日を設けることによって、ベテランボランティアから経験の浅いボランティアに手法を伝えるよい機会となった。